



もうすぐ春

積年の財産を大事にする運動を!!

20年1月28日、中国武漢からのツアー客を乗せた奈良のバス運転手の感染が報じられ、2月5日には豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス号」の10人の感染、そして5日後の10日には135人の感染が明らかになった。以来、他国よりはやや遅れたとはいえ、新型ウイルス「デルタ株」の第1波が日本に襲いかかった。政府は休業、時短要請、あるいは協力金の支給と言った形で抑えこみを図り、これに成功をしたと見るや、「GO・TOキャンペーン」の実施で第二波を到来させてしまった。

そして東京五輪の開催である。国論を二分するものとなりながらも、政府は23日に「無観客開幕」を強行した。そして東京都に4度目の「緊急事態宣言」を発令するに至り、29日には国内新規感染者が1万人を超えるものとなったことを忘れることができない。さらに「政府のワクチンの供給の不明確さ」も明らかとなり、「医療崩壊、自宅待機死亡」という事態に国民の不安と怒りは大きなものとなった。

その中でどうしても取り上げたいものに日本におけるワクチンの確保がある。ここに昨年2021年3月2日現在の、ワクチン接種の国別ランキングがある。一位はイスラエルの55.6%に始まり、三位

の英国が30.2%、そして6位の米国が15.5%の接種率であった。しかし、その当時の日本は医療従事者への接種は進められていたものの、全体としては僅か0.03%と出遅れであり先進国最下位であった。勿論、高齢者向けの接種は始まってもいなかった。

このような状況下にあつての政府の無為、無策と菅内閣の退陣、そして延々と続いた自民党総裁選劇に対し、どれだけ責任追及ができたであろうか。その総括が今必要と考えたい。

支持者に寄り添う「共有」・「共感」の取り組み

社民党の党員の平均年齢は定かではないが、多くは「後期高齢者」であり、同時に社民党に期待をし、支持をしてきた有権者の多くもまた高齢者である。昨年、社民党は分裂の経験をした。しかし、10月末の衆議院選の全国比例得票は101万票を獲得している。この得票は、3年前の衆議院選の獲得票を7万票上積みしている。しかし得票率は17パーセントであった。党(党員)の頑張りもあつただろうが、その数字は社民党を支持してきた、とりわけ高齢者の支持票がそこにあり、それは社民党の積年の財産であろう。であれば「共有」と「共感」の運動方針が必要と思うが、どうだろうか。

「OB・G郡山の会」は、「居間からの発信を」と言う提起をしている。会員の多くが高齢者である。

行動は困難になってきている。よって手紙、電話、フックス、そして今や高齢者もスマホを使っている。であれば、それらを使って知人、友人に久しぶりの「交信」ができないだろうかという提起である。

今、「コロナ・ウイルスは変異を重ね強力な感染力を持つオミクロン株へと変化をしている。そして、これまで対象にはならないとしていた10代の子どもへの感染が広がり、その広がりが家庭内感染となり高齢者の命を脅かそうとしている。そこに65歳以上の高齢者への3回目のワクチンの接種が急がれている。「岸田首相」は、口を開けば2回目の接種以降、6ヶ月への前倒しの接種と、その協力と努力を自治体求めている。しかし事実は、遅れに遅れて接種の予定は8ヶ月を超えるものとなっている。また「ワクチンの供給が不足」をしているのか。それとも「行政の人的、事務的対応力が不足なのか」。「接種体制」が準備できていないのか。全てが闇の中である。

夏の参議院選を前にして、今問われることは「その間の実態を有権者の前に明らかにして、あつてはならないが、今後の「第7の波」に耐える準備をしなければならない。それが社民党にあつては「これまでの財産を守る」として増やすこと」だと思ふ。そのことが、積年の支持者の皆さんとの「共有」と「共感」を共にすることであり、その運動を大事にすることだと思うが、どうだろうか。



【気づいたこと、感じたこと】

郡山市「合葬墓」実現の

取り組みから学んだこと

確かに運動の柱に医療・介護・年金がある。しかし、市民の目には、その運動がスローガンをかけたものとしかうつらないという意見をよく聞く。つまり、市民にとって「見える化の具体的な取り組み」になっていないということなのか。私たちの運動も改めて見直す必要があるのではなからうか。

かつて「OB・G郡山の会」が軸になって、「合葬墓」を考える市民の会を結成し、郡山市に対し「市民合葬墓」の建設を要求した。また「介護問題」を考える会、「公共交通の充実」を考える会などの市民運動に取り組んだが、結論に至ったものに「郡山市合葬墓」がある。そしてすでに、それは共用がはかられている。あらためてこの取り組みを報告したい。その運動は、郡山市議を長く務められた仲彰則氏と事務局長が市川市の「合葬墓」の見学から始まった。市川市の所轄責任者の説明の後、現地を見学する。そこで強い印象を受けたことがあった。

「一人の老婆が祭壇の前の椅子に腰を掛けていた。お彼岸でもお盆でもない通常の日である。連れて合いの命日か。それとも来たい時にきたのだろうか。多分、合葬墓の中に収められている骨箱の脇には、もう一つのスペースが用意されているのだろう。」

その強烈な印象を今でも忘れることができない。その想いが、実現までの8年の長さに耐えたエネルギー

ギーになったと受け止めている。

そして³⁾11を経験した。郡山市内でも、多くの墓石は倒れ未だにそのままになっている墓地も多々ある。また今般のコロナ禍もあつて墓参も困難になっているだろう。「手向けの花もない」、「除草もされていない墓地」も少なくない。いわゆる「墓の管理」が困難になっているということなのである。

そこに「少子高齢化」の実態が重なる。あらためて「公共の合葬墓」がこれからの時代になつたものとなるだろうことを痛感した。

最後に伝えたいことがある。それは、当初私たちの要望を受けた郡山市の所轄管理者が「合葬墓は市民の要求になっているとは考えられない」と述べていた。しかし完成した合葬墓に案内をしてくれた時の言葉がある。「市民の多くが望んでいたのですね」と。つまり公募をするやいなや、多くの市民の応募があつたことによる感想であつた。「事態の先取りと、市民との共有・共感の運動が、そこに結果が生まれる」ということではないだろうか。

ガソリン・灯油への国の補助は

消費者には届かないのか

毎日が日曜日、ましてやコロナ感染の拡大の中で外出は抑え気味な二人暮らしの暖房は一日中働らき続け、灯油はあつという間に無くなる。車を運転していたときは安価な店を探してはまとめ買いをしていた。しかし今は給油車を頼みとするしかない。そして今年の値段は18リットル2150円。スピーカーを流して給油車が来る。ポリタンク2缶と屋外タンクに36リットルで8600円の支払い。

「そして自分に言い聞かせる。車のガソリンを入れ無くなったから、まあいいか」と。

さて政府は、このガソリン、灯油の価格上昇に対し1リットル当たり最大5円の補助金を出すことを決めた。しかし、その補助金が店頭販売価格に反映するかどうかは元請の判断に委ねられる。ガソリンスタンドの店頭販売に補助金が反映しているのか。消費者の私たちがその恩恵を受けているかはわからない。1月26日の毎日新聞の余禄は、そのことを「大岡裁き」を例にとつて指摘をしている。いわゆる名奉行、大岡越前守が「油問屋」の独り占めにたいして利益分を没収した」との記事である。

「新しい資本主義」とはどういうものかはわからない。しかし、「元請けが下請け企業に卸す金額の妥当性」を明確にできないのであれば、それは『分配の正当性』を満たしたとは言えない」。同時に、それは消費者国民にはねかることはない。

今こそ、岸田内閣の「新しい資本主義」のまやかしを私たちは知らなければならぬ。

3回目接種ワクチン 116万人分確保されていた

県内での新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を巡り、4月末時点で接種対象者の人数を上回る量のワクチンが国から供給される見通しとなった。県は「オミクロン株」の感染拡大による接種間隔の前倒しを踏まえて、4月までに116万人が接種対象になると見込んでいる。4月までに供給されるワクチンの量は米ファイザー製と米モデルナ製を合わせて122万2733回分で、その時点での対

象者は累計116万人であり、約6万2000回分の余裕がある。配分量はファイザー製44%、モデルナ製55%。3回目接種は交互接種も行われる。

(1月19日 福島民友より・別表参照)

(別表) 福島県の追加接種想定人員(累計)と

ワクチン配分比較(1月14日現在)

(別表)	1月	2月	3月
追加接種対象者(累計・人)	167.000	610.000	942.000
ワクチン供給(累計・回分)	531.863	846.153	1.127.183

	4月	5月	6月
	1.160.000	1.384.000	1.504.000
	1.222.733		

新型コロナウイルスのオミクロン株感染爆発が続く中、県内のワクチンの三回目接種率は10.5%(2月15日現在)である。その原因は何か。つい最近まで第一に「ワクチンの供給不足が原因」か、と受け止めていたが、しかし、福島県においては1月の時点でファイザーは確保

できずとも、モデルナとの交互接種を可とするなら3回目のワクチンの接種が可能だけの十分量が確保されていることを知った。さらに前ワクチン大臣であった河野太郎氏は、当時(12月末)1、2回目に配ったワクチン1千万回分が市中に残っていた。そもそも薬事承認は6カ月だから「2回目の接種から」打ち始めることができた」と述べている。

(2月12日・朝日新聞) 是非とも検証しなければならない事項であろう。

報告・提言のひろば



■憲法を変えて戦争体制に入る動きがあります。孫・子の世代に未来の平和を守ってあげたいです。戦争体験者としてみんなに訴えます

■OB・GニュースNo.176号ありがとつごいしました。1月に「大腸ガンの内視鏡手術」で入院、返信が遅れました。手術は成功、体調は回復しつつあります。護憲を確認し合うとはすばらしいと思います。私たちは「総評・社会党ブロック」を構築し、闘ってきた信念は、高齢化した今も揺ることはありません。夏の参議院選頑張ります。

■健康第一に、少なくともなった人員ですが、しぶとく頑張りましょう。

■テレビや新聞を見てひとりポヤっています。アベノマスクの件や岸田のふがいなさに、やはり選挙で勝つしかありません。毎月届けて下さるニュースを一気に読んでスカツとします。

■若い人たちが報われる社会になって欲しい。娘は医療従事者ですが給料の低さに啞然とします。

■毎年、元気に介護施設に週4回通っています。バキンソンに負けたくありません。頑張ります。

■「怒」人類という生物は、次第に傲慢になり、自らの利益のために地球環境を破壊してきた。地球への破壊は限界に達した。「地球の命を守れ」絶滅危惧種の虎は叫ぶ。

■私も馬齢を重ねていますが、「OB・Gニュース」でハツとします。

■本場に継続は力です。それぞれに高齢世代となり、いつまで続くのかと、

自らに問いかけながらの活動です。オミクロンに負けないで、休養、栄養、体を冷やさない様に、気を付けて、頑張りましょう！

■正月もアツと間に過ぎ「患方巻き」の話は小生には無縁となった。バレンタインデーの中での福島県の「コロナ感染」と、そして緊急事態宣言のその先が混んとしてきました。相変わらずの感染予防対策、高齢者対応やきもきしています。私の3回目接種が多分3月と推察します。町内会も高齢者が増加し会合の度町内会として高齢者に特に単身者に何が出来るか等の話題です。議論するのは、私も含めて「高齢者」です。笑えない話ですが現実です。でも若い人ばかりでなく「自己責任」で自分を守らないと思いが募ります。仕方が無いと思いつつ「政治の貧困」で片づける事も何か空しいです。新型オミクロンに負けず頑張りましょう。必ず明るい明日が来ることを信じて。

■オミクロンの感染拡大でまたしても仕事がなくなりそう。学習能力のない政府をなぜ多くの国民が支持するのか、忬度ばかりしてまっとうな批判を書かないマスコミの責任は大です。私も67歳になりましたので、「単身生活の老後」はとも参考になる記事です。敵基地攻撃とか台湾有事とか、憲法が危なくなりました。こういう時のためにも社民党にはがんばってほしいです。参院選で一人でも多く国会議員が当選することを祈ります。私も応援頑張ります。

■無気力、元気なし、それでも頑張ります。

狂歌一句「透析で月・水・金の四時間は、両手しばられ張りつけベツト」

■雪の中の除雪作業で過ごしています。猪苗代町の教育全般がストップ(休校)状態でウイルスの感染に恐れ外出も最少限度です。いつか春が来るようにオミクロンウイルスも終息して欲しいと町民は念じています。報道は連日のように、その人数は増加と報じています。

■40年以上にわたる医療生協の活動は800人の組合員を抱え、月一度の生協ニュースは全部手配りです。その体制は約40名の方々のネットワークで支えられています。社民党活動に大いに役立っております。1月に総評OB会の総会と勉強会がありました。各単産の退職者組合にも呼びかけたのですが、「今日は思ったより多く集まったね」が50名でした。高齢者ばかりで出歩くこともままならない現実です。

■コロナの第5波以降の感染者急減を、ミラクルなどと表現するのも聞きましたが、現在の第6波の想像を超えた感染拡大を見るにつけ、日本だけ特別なんてあり得ないのだなと当然のことながら、思い知らされます。昨日、世田谷区のワクチン3回目の接種券が届きました。今回のニュース郡山版にあつた時期とほとんど同じタイミングです。すぐにパソコンに向かい接種日の予約を行いました。予約できるのは最速で3月中旬でした。なんと一ヶ月半後です。オミクロン株の感染状況からは、定期的に接種の意味があるのか?などと思ってしまう。

接種後、抗体値が上がるころには、状況は全く変わっていることでしょう。2年前からの多くの人の疑問:なぜ日本の検査能力は他国とくらべてもこんなに低いのか?はいまだに解けません。病院ですらPCR検査のみならず抗原検査キットもないとニュースが伝えていきます。科学技術立国といながら、ただただ不思議です。専門家のなかに、検査を拡大することへの否定的な意見があるとか、厚労省の医系技官が言うことを聞かないとか、言い訳のよ

うな話は聞きますが、国としての説明は全くありません。欧米ではデンマークなどを筆頭にウイルスコ

ロナの新しい政策が示され始めているようですが、科学的なデータに基づき、悪いことも含めて国民に説明するという姿勢が感じられません。きちんと検査して現状を正しく把握しない限り、正しい対策は立てようがないはずですから当然のことです。一方、日本では決定的にその姿勢が欠如しています。選挙に悪い影響を与えそうなことには蓋をして、「知らしむべからず、よらしむべし」という民主主義とは真逆の考え方が通用してしまっている政治状況はコロナにとどまらず、モリカケはじめこの間の多くの問題に通底しています。「なぜ?」ばかりが沈殿してゆく憂鬱な気分になります。

■ワクチン接種に関すること、すぐく参考になりました。大分市でも供給量の目処が立ち、この一週間ほどでめまぐるしく今後の接種計画等が変更になっていきます。特に、子どもたちとともに日々生活している学校現場で働く教職員への集団接種について、かなり以前から方針だけでも先行して発信

するように促していたのですが、供給量の目処が立たなかったため、最近までずれ込んでしまいました。

結局、集団(職域)接種ではなく、各自での予約申し込み制となりました。ただ大分市の方針で、教職員等に関しては年齢を問わずに、二回目の接種完了の順に従って、先行して接種券の発送となりました。この点だけは、早めに意見していたことが活かされました。ここからも見えてくるように、国の後手、後手の情報が、県や各自治体の方針や計画にマイナスの影響を与え、対策が遅れている実態が明らかです。接種券が届く前の接種予約が、一部ではありますが急遽できるようになり、それらの情報も含めて、校長会や学校現場の教職員に伝わるように、具体例を挙げて二三日、意見要望を述べ関わってきました。

■私の町では65歳以上のワクチン接種が、2月13日から始まります。ワクチンは、接種日によってはファイザーとモデルナの交互接種になり、予約は順調と聞いています。早く接種できることに越したことはありませんが、早くできるかどうかは市町村の体制によります。人口や地域での差もあると思

います。『遅いの』と言っても仕方がないではないでしょうか。ワクチン接種体制の現状と、できる限り早く接種できる方策を市町村担当部署に聞いて、市民も出来るだけの協力することが、接種をスムーズにできることなるのではと思います。そのための行動を地区の党組織(総支部)で議論しては如何でしょうか。

